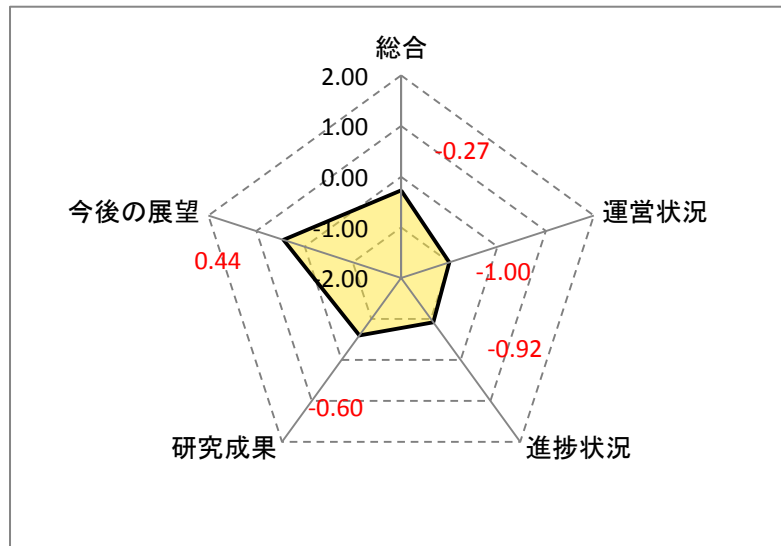


## 戦略的研究推進センター平成27年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：萌芽研究部門

『隠岐の秋ブドウ』の漁況予測のための資源生態調査

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	-0.27	-1.00	-0.92	-0.60	0.44	-0.47
評価	C-	D+	D+	D+	C+	C-



### (評価コメント)

#### 【総合評価からのコメント】

- 本課題は広域にかかわり、生き物であるので自然の影響をまともに受けるのでかなりむづかしい所もある。しかも少人数のグループである。それでもブドウ型の雌の発見など将来の展開につながる興味深い結果を得ている。
- 高大連携の活動は評価できる。漁業関係者への情報発信も望む。
- 全体として、地域の水産業にとって重要なテーマのため、研究成果に期待する。
- 発表論文、外部資金獲得ともに物足りない。自己評価を妥当と判断する。
- 海洋探査機による産卵床の発見に至らなかったことから、当初の計画である産卵床の変化の追跡、卵塊採取へと研究が進まなかった経緯は残念ではあるが、今後、産学官連携による研究へと発展することを期待する。
- 自然相手で致し方ない点はあるが、計画通りに進まなかった。一部新発見が得られたのは評価に値する。
- 研究テーマが難しいこともあり、成果の計画通りの進捗が困難と思われる。
- 3名の少数精鋭組織である。論文掲載の計4件は、一人当たり1.33であり、アクティビティは維持されていると判断される。科研費1件を含む外部資金2件は一人当たり63万円と堅実である。新潟市で1件シンポジウムを開催し、地元の地域連携は4件(高校3件、水産振興協議会1件)ある。隠岐のイカ資源予測の目標を掲げているが、今後は隠岐においてさらに産学官連携を拡大していくことが期待される。
- 今年度の成果が明確ではないように思われる。
- 将来に向けての方向性や問題点が見え始めたのかもしれない。外部との共同研究などを通して一層の進展を望みます。

#### 【各評価項目からのコメント】

- 他機関との連携は評価できるが、学内組織での役割分担が見えづらい。
- DNA解析によりケンサキイカとブドウイカが同種であることがわかったことは一つの成果であるが、研究目標までの道のりが厳しいことが伺える。
- 水中生物を対象にされたことや、研究課題が多かったためでしょうか、計画通りに研究が進まず、期待された成果が上がっていないような印象を受けました。計画書の計画概要にあった「イカ予報(長期的と短期的)の為のロードマップを作成する」に関する成果が年度報告書の計画と達成目標に記載されていないようです。引き続き研究を進められ、当初の目標を達成されることを期待します。3月8日の成果報告会の資料にPPTのハードコピーが添えられていなかったのは本萌芽プロジェクト研究のみでした。
- なかなか当初の見通しどおりの研究をすすめ成果をあげることが難しかったように拝察いたしますが、そのプロセスで今後につながる成果が得られたようですので、新しい取り組みに期待いたします。
- 論文や学会発表等がされており、成果は評価できる。
- 共同利用拠点として開放することにより利用者の増加は期待できるが、これまでの研究成果に対する評価は高いものではなく、今後の発展性も不明確である。
- 論文発表や外部資金の獲得が一部のメンバーに偏っており、プロジェクトとしての協働成果がよくわからない。メンバー間の協働をさらに推進し、個々の研究の集積ではなく共同での外部資金獲得や成果発表につなげて欲しい。
- 新たな共同研究がよい方向に走り出した感がある。こうした協働を学内の他の研究者も巻き込んで、もっと早くから展開できるとよかった。